



3



2



1

ミッケリは、ヘルシンキから約230キロほど北東にある中堅都市で、約5万5千人ほどが暮らす街。このミッケリを訪れる前、ヘルシンキに滞在中の6日間が、初夏だというのにまるで冬のような寒さで、ほとんどが雲に覆われていた。だからここに来た日の青空はとても印象的で、まるで季節を飛び越えて北上したかのようなだった。フィンランドは「森と湖の国」とはよく聞いていたけれど、ヘルシンキでは「都市なのに自然が豊かで羨ましい」と思うくらいだったのが、ミッケリまでの道のりの車窓は、本当に森か湖しかなくて驚いた。抜けるような青空だったので、青と緑で構成されている世界をずっと走り続けて約2時間半。ヘルシンキが大会なら、ミッケリは地方都市。きつとっとフィンランドらしさを体感できるにちがいないという期待感とともに到着。

さてそのミッケリ、結論からいうと、そこは「オーガニック」な街。訪れたカフェでは、厨房から出てきたシェフが、目の前の畑で食材を収穫していく光景に出会い、ヨーロッパで4番目に大きいという湖のほとりにはエコロジークなバイオマス発電所を目にし、ホームス



7



6



5



4

ティ先はオーガニック農家だった。「オーガニック」とは有機栽培の意味だけれど、その意義は自然の循環システムを守ること。そういう意味でも、ミッケリはオーガニックな街。さらにそれは、ミッケリに住む人に限ったことではないはず。フィンランド人は、自分たちは自然のなかの一部だということをよく知っているのだ。輝く夏を存分に味わい、じきにやってくる厳しい冬も受け入れる。そしてなにより森がフィンランド人にとっての宝物。目の前にある木は自分たちが生まれる前に植えられ、そして今植える木は孫の世代のために。何百年という単位で物事を俯瞰して見ることは、今をどう生きるかにもつながっている。

ミッケリに滞在中、街の中心にあるセカンドハンドショップを訪れた。アラビアの食器などが格安で手に入るなんて（しかもアンティークー）、まるでお宝の発掘現場のようだったが、そこを訪れる地元の人はいって普通に、必要なものを探しているという様子。モノの循環も生活にしっかりと根付いている。大切に使用してきたものを次の人に大切にバトンタッチするのも、森を大切に次の世代に受け渡すのも同じことなのだ。

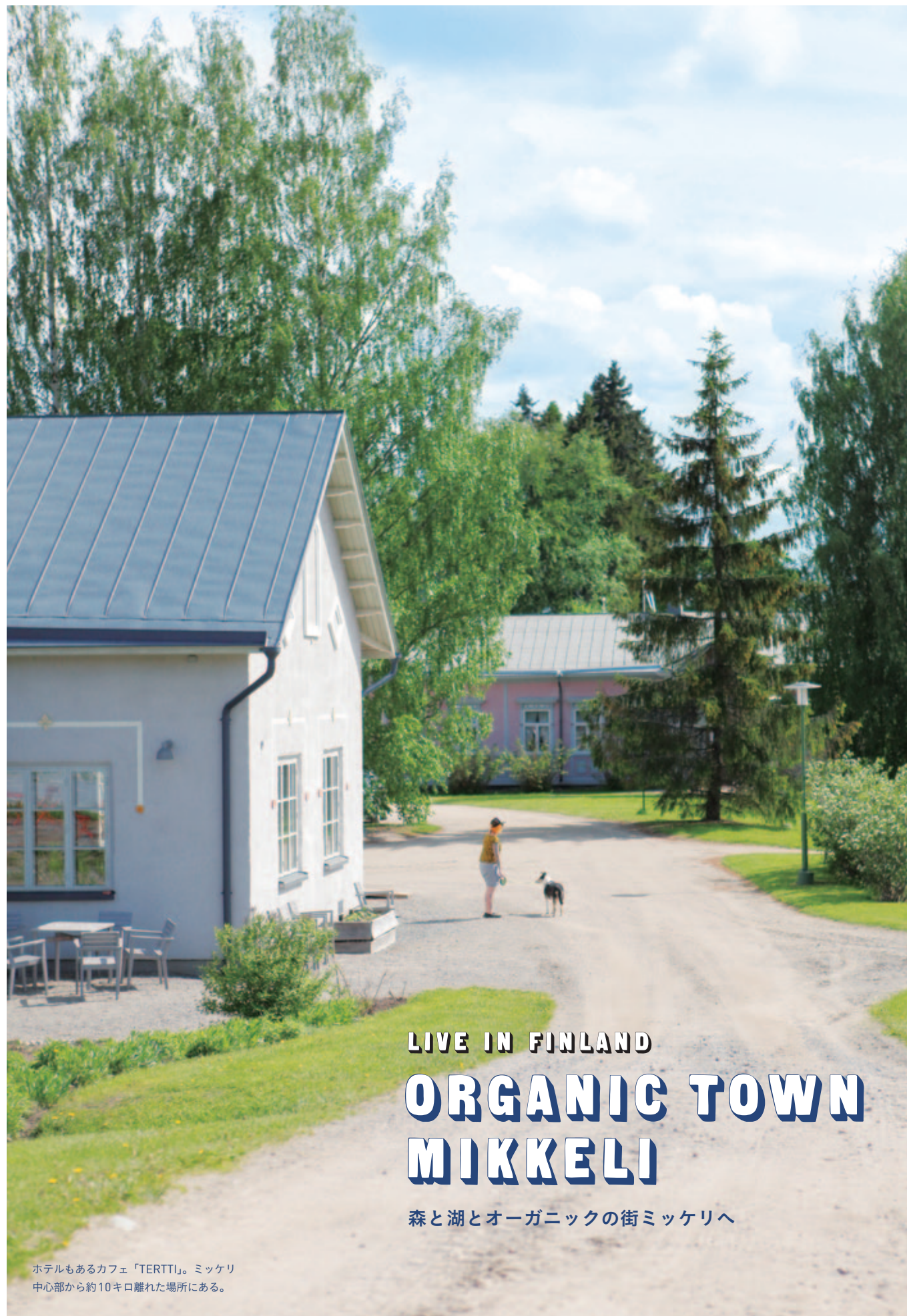
1ミッケリに唯一ある電力会社のバイオマス発電所。隣の製材工場のおがくずからつくられる電気は全体の7%をまかなう。2森の伐採現場にはこどもの姿もたくさん。森で働く人はヒーローなのだ。3果てしなく森が続く道。4オーガニックカフェのランチ。5セカンドハンドショップ。6ストランや宿泊施設も併設するカフェ。7美しい森。8畑でルバーブを収穫するシェフ。9ミッケリを一望できる展望台は、かつての水道塔。



9



8



LIVE IN FINLAND ORGANIC TOWN MIKKELI

森と湖とオーガニックの街ミッケリへ

ホテルもあるカフェ「TERTTI」。ミッケリ中心部から約10キロ離れた場所にある。



7



4



1



8



5



2



9



6



3

7オーガニック野菜のグリル。蜂蜜をたっぷりかけてオープンへ。8 デューリアちゃんの左手に握りしめられたおやつはドライレーズン。9 ホームステイ用の客室は、木の温もりのあるかわいい部屋。

4 菜種油用の菜の花畑の向こうに見える黄色い家がファーゲルルンドさんの家。5 友人と共同経営している牧場の牛。6 夕食のデザートは、イチゴのコンポート。クリームをかけていただく、森の恵み。

1 冬になると活躍する暖炉。その前に飾られた、刺繍の家がかわいかった。2 たくさん出るコーヒー豆のパッケージは、ゴミにはせずカゴに変身。強く丈夫。3 家族写真の飾り方は、ぜひ真似したいセンス。



LIVE IN FINLAND HOMESTAY

ミッケリでホームステイ

ファーゲルルンド家



ミッケリから44キロほど離れた村ユヴァの、菜の花畑が広がる広大な土地に、ザラさん(母)とアンシさん(父)、そしてデューリアちゃん(2歳)が暮らしている。ミサワホーム・フィンランド社を通じてホームステイの申し込みができる。詳細はお問い合わせを。
http://www.misawa-homes.com/fagerlund_jpn.html



暮らしに溶け込む 旅のススメ

海外生活を体験するなら、アパートメントホテルに滞在するのも楽しい。でも、「ホームステイ」なら、もっと暮らしに近づけるに違いないと、私たちはミッケリにいくつかあるステイ先のなかから、近郊の小さな村に住む、ファーゲルルンドさんファミリーにお世話になることに。到着した先は菜の花が満開で、見渡す限りの黄色い風景。その向こうに建ってる、いかにも北欧らしい木の家が今日の宿。部屋に荷物を置き、コーヒートベリー入りマフィンをいただきながら、おしゃべりしたり、家

の周りを散策しに出かけたら、あつという間に晩ご飯の時間。メニューはオーガニック食材をつかったザラさんの手料理で、野菜とお肉のグリルがメイン。ちなみにデューリアちゃんはオーガニックのものしか食べたことがないそう(ー)。そんなデューリアちゃんと一緒に食卓を囲んだ後は、北欧らしいイベント・サウナタイム。アンシさんは毎日のように入り、デューリアちゃんもサウナが大好き。こんな感じで、一家の日常にお邪魔させてもらえるホームステイ。滞在中、リクエストすればアクティビティも用意してくれるけれど、私たちはのんびりと過ごした。それもまた、フィンランドの暮らしを知る、よい過ごし方。